

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 東住吉区

学 校 名 矢田北小学校

学校長名 清水 健司

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・矢田北小学校では、第6学年24名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数の平均正答率は、全国・大阪市平均より低い結果であった。全国平均と比べると、国語科は14.2ポイント、算数科は17.5ポイント低い。無回答率については、全国平均と比べると、国語科は7.5ポイント、算数科は14.4ポイント高い（悪い）。

国語科の「情報の扱い方に関する事項」については、全国・大阪市平均に近づいた。しかし、「話すこと・聞くこと」については全国平均より21.5ポイント低く、「書くこと」についても全国平均より22.2ポイント低く、課題である。

算数科の「変化と関係」については、全国・大阪市平均に近づいた。しかし、「数と計算」については全国平均より21.8ポイント低く、「データの活用」についても全国平均より21.6ポイント低く、課題である。

分布状況を見ると、高正答数の割合が低く、逆に低正答数の割合が高い傾向がある。今後も基礎基本の学力の定着とともに、更なる学力の底上げが必要である。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う」の問題については、定着している。しかし、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことや「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」ことには、課題がある。

〔算数〕

「変化と関係」の問題については、成果がある。特に、「百分率で表された割合について理解している」の問題については、全国・大阪市平均よりも3.7ポイント高い。しかし、

「図形」分野や「思考・判断・表現に関する問題」、「求め方や理由を記述する問題」に弱い傾向がある。今後も「数学的な考え方」を深める授業づくりが必要である。

国語・算数をはじめ、全ての教科で「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを進め、自分の考えを自ら発表する場の設定を作っていく。また、「学力向上支援チーム事業」や「学校力upベース事業」、放課後学習や区役所と連携をしている放課後学習塾「なでしこ」等も活用し、それぞれの課題にあった習熟度別授業を展開し、個に応じた支援を進め、学力向上に取り組んでいく。

質問紙調査より

児童質問紙の結果を見ると、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてください」の肯定的割合が100ポイントと高く、担任が「誰一人取り残さない授業」を目指し、工夫・改善してきた結果であると考え。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的割合が、全国・大阪市平均よりも高く、本校での人権教育の実践の成果であると考え。

しかし、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的割合が全国・大阪市平均より低く(全国より49ポイント)、家庭学習の定着に課題がある。また、「算数の授業は好きですか」の肯定的割合も全国・大阪市平均より低く(全国より35ポイント)、研究テーマである算数科の授業改善や「楽しい・わかる」授業づくりを進めていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

本校は、今年度の研究テーマを、「学びの楽しさを味わう算数科の指導をめざして～進んで考え、考えたことを表現したいと思う授業づくり～」としている。学習が定着し、算数科の学力を向上させるには、児童が算数に興味をもち、「楽しい」「わかった」という実感をもつことが必要不可欠である。児童自らが課題に向き合い、主体的に考え、身につけたことを活用する中で習得した力がついたことを実感することができるようにする。児童がより理解できる手立てとして、習熟度別少人数授業やT・Tを活用し、反復練習による基礎的・基本的な学力の定着を図る。「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を進め、「考える・発表する」機会を積極的にもち、説明できる力の育成にも力を入れる。

また、国語科では、「読むこと・書くこと」の指導法を充実させ、「自分の思いや考えを進んで表現する」ことによって、児童の学力向上を目指す。どの教科でも、授業の「めあて」の明確化をし、ICT機器や一人一台端末を活用した視覚的教材の工夫等により、「わかる授業」を目指す。さらに、児童が自信をもって行動してほしいという面でポジティブな行動支援(PBS)の考え方も並行して取り組む。加えて、「学力向上支援チーム事業(重点支援)」を活用し、「教員の授業力向上」「子ども一人ひとりの課題に応じた指導の充実」を図り、「誰一人取り残さない学力の向上」を目指す。

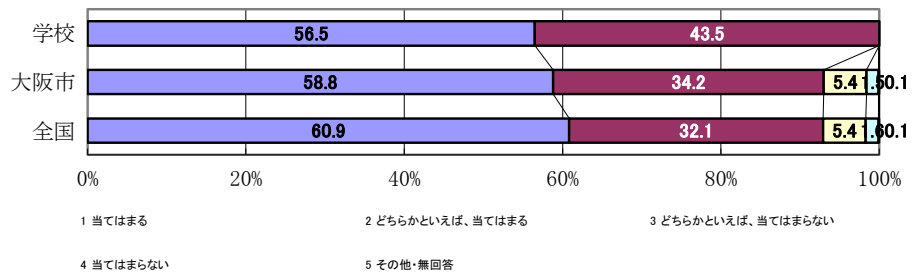
学校の整備面では、学校司書と連携し、活用しやすい図書館改革を進め、読書や調べ学習がしやすい図書館を目指す。図書館開放や「地域の方による読み聞かせ」「読書通帳」等を活用することで、本に親しみ、調べ学習のしやすい環境づくりを進める。また、「漢字検定」や「子ども新聞」「自主学習ノート」の活用を通して、学習に対する興味・関心を高め、学力の向上につなげていきたい。さらに、学びコラボレーターによる放課後学習や区役所と連携をしている放課後学習塾「なでしこ」も活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図っていく。

児童質問紙より

質問番号
質問事項

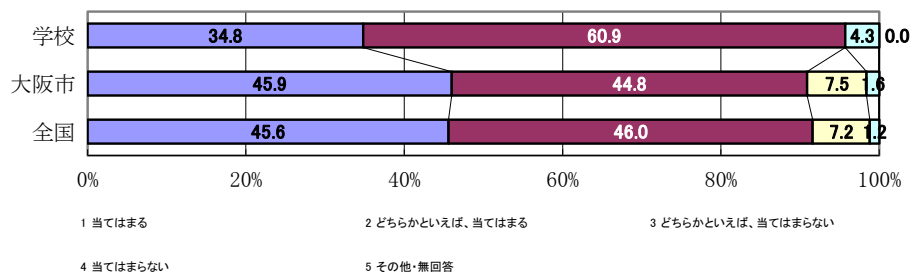
6

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う



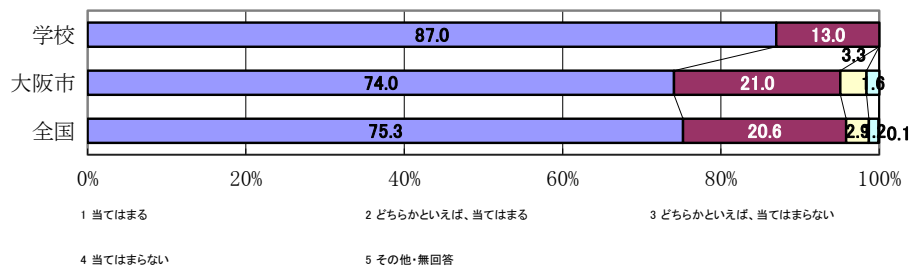
8

人が困っているときは、進んで助けている



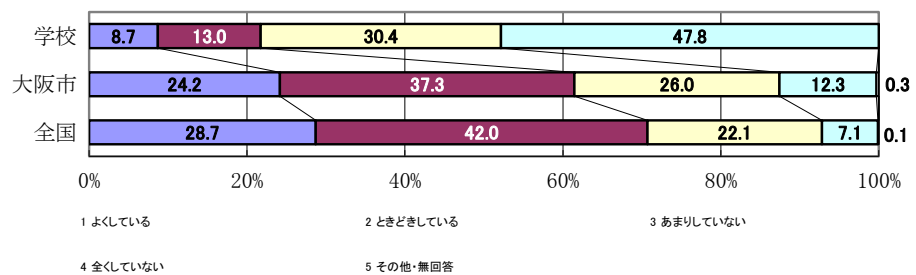
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



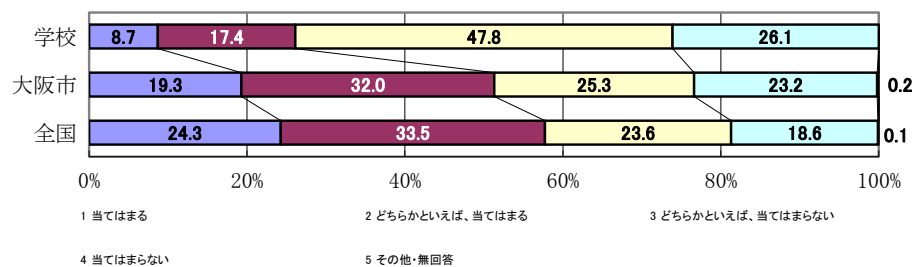
16

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含みます)



25

今住んでいる地域の行事に参加している

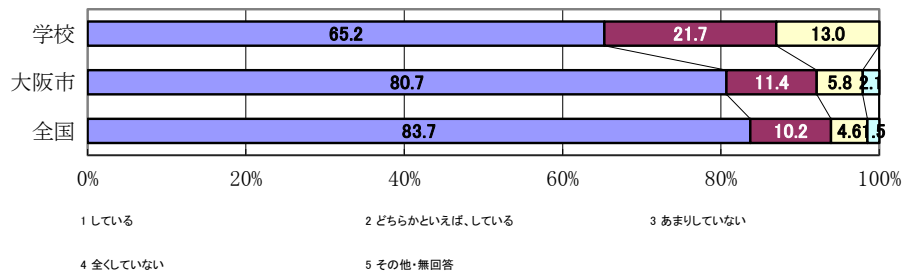


児童質問紙より

質問番号
質問事項

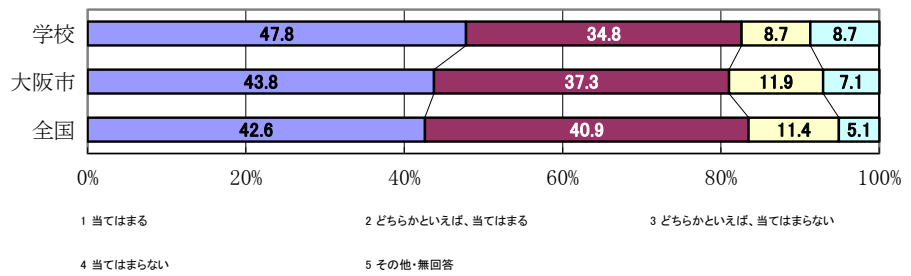
1

朝食を毎日食べている



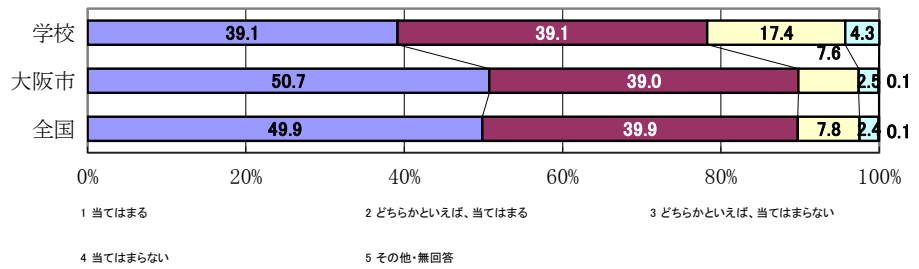
4

自分には、よいところがあると思う



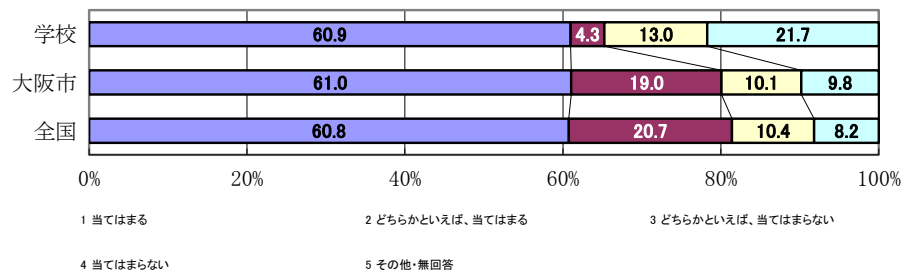
5

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



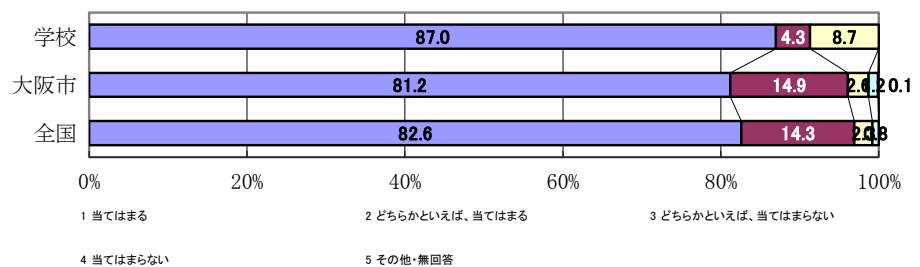
7

将来の夢や目標を持っている



9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



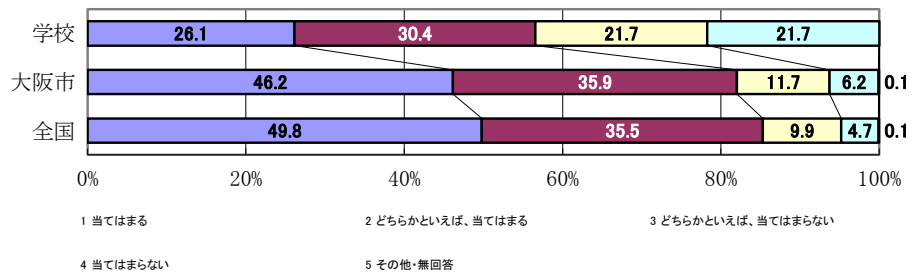
児童質問紙より

質問番号
質問事項

12

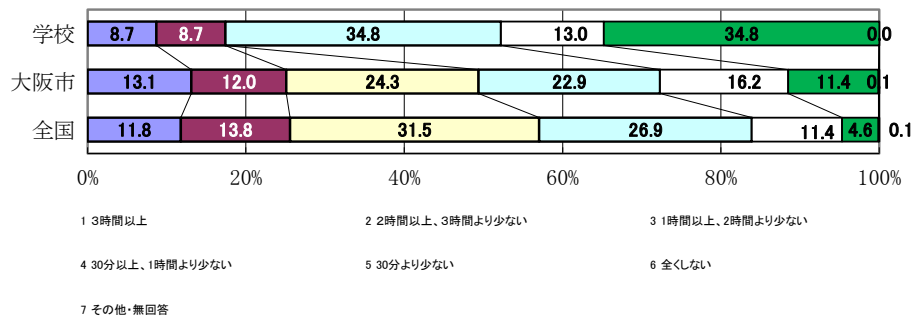
学校に行くのは楽しいと思う

1 2 3 4 5 6 7 8



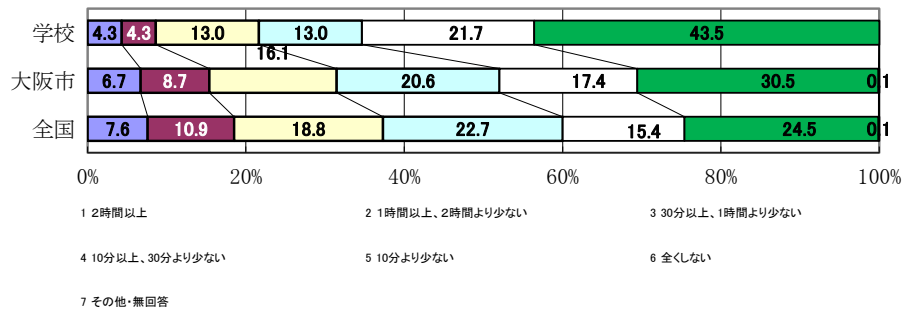
17

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます）



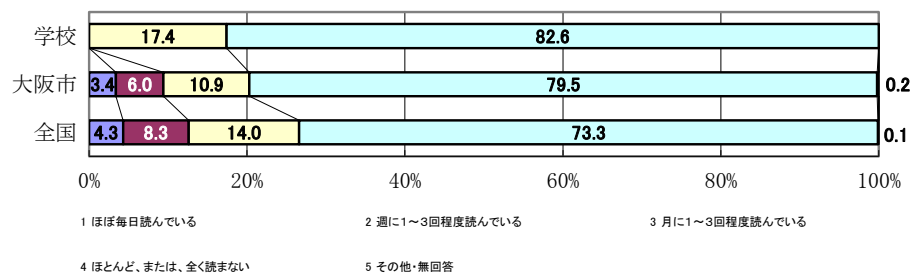
20

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）



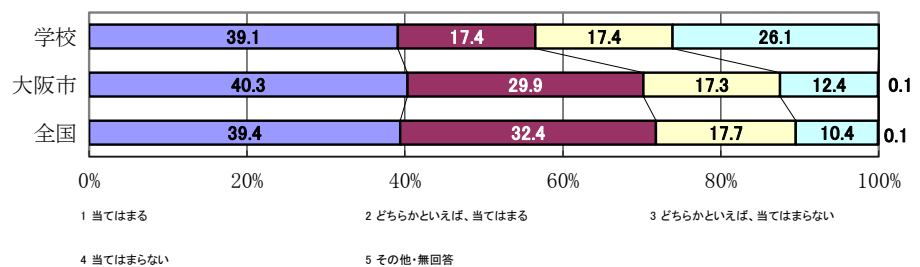
23

新聞を読んでいますか



24

読書は好きですか



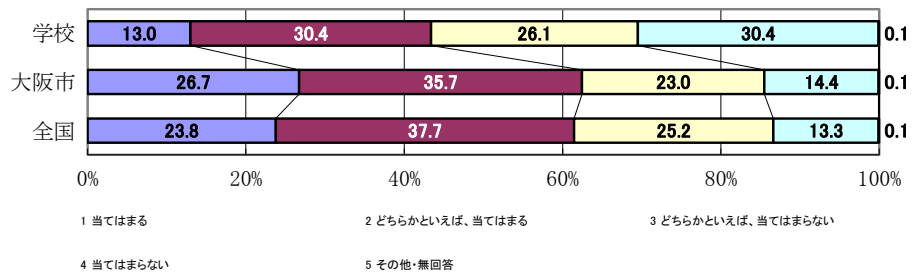
児童質問紙より

質問番号
質問事項

43

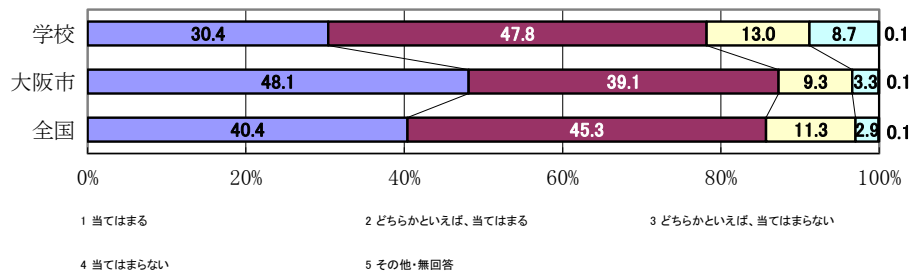
国語の勉強は好きだ

1 2 3 4 5 6 7 8



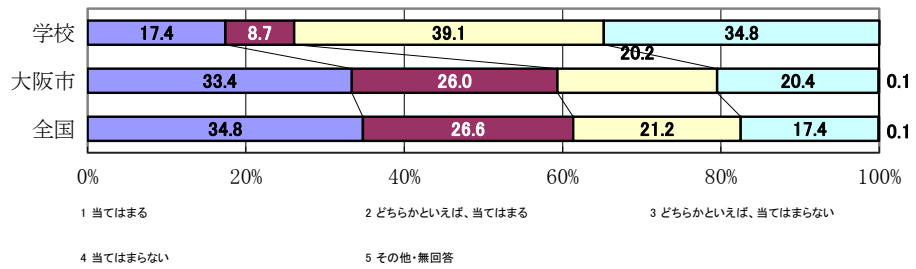
45

国語の授業の内容はよく分かる



51

算数の勉強は好きだ



53

算数の授業の内容はよく分かる

